

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

西部講堂を中心とする戦後文化空間の研究

A study of post-war cultural space focusing on SEIBUKODO

2. 研究代表者氏名

朴沙羅

Park Sara

3. 研究期間

2020年4月-2021年3月(1年度目)

4. 研究目的

冷戦後の世界における世界的な価値観の動揺が、人文・社会科学の研究者から指摘されるようになって久しい。近年の「先進国」における経済成長の停滞と貧困問題は左右のポピュリズムを生み、それらは反権威・反エスタブリッシュメントとして、今や政治的・社会的に主流となった多様性の寛容を攻撃している。しかし「かつての価値観」や対抗文化の動揺がしばしば指摘されるのに比べて、実際のところそれらは何であったのかについて具体的な研究は多くない。本研究は、西部講堂という自主管理空間に関わった人々の回想を通じて<ポスト 68 年>の中で再生産されてきた価値観の内実を明らかにすることを試みる。こうした空間は「広い意味での 5 月の運動やその伝播の中で示された価値転換」(宮島喬「新しい社会運動とポスト 68 年の社会学」p.178)の産物である。地域社会において、またそこに関わった個々人の歴史においてこうした空間は一体何であるのか、それは価値観の動揺が指摘される現代社会において何を教えるのかを明らかにする。

Scholars in humanities and social sciences have been pointing out the shake of values in post-Cold War world. Recession and poverty in “developed” countries generates populism in both right and left sides, leading to attacks to diversity that is now a political/social mainstream. However, compared to the academic suggestions of uneasy “old values” in counterculture, scholars are lacking empirical studies to support the claim. This project tries to cast lights on values of “post-68” and practices that have reproduced them in Seibu Kodo, a milieu of autogestion, through personal recollections of the people who have joined there. A place like Seibu Kodo is a product of

“transformation of values indicated in May Events and its spread” (Takashi Miyajima, *Atarashi shakai undo to posuto 68 nen no shakaigaku*, p.178). The research project will clarify the meaning of the autonomous place in local community, personal histories, as well as its lessons to contemporary society, where certain values has no longer seem stable.

5. 研究成果の概要

本共同研究は西部講堂の歴史を調査することを目的として資料収集及び聞き取り調査を精力的に行った。その概要は以下の通りになる。2020年6月に新開純也に対して駒込武と本研究班員の田所大輔、福家崇洋が戦後京大学生運動について人文研で聞き取りを実施。7月10日には「21世紀の人文科学」研究班と共催で人文研において、ダムタイプで音楽を担当してきたDJ山中透へのインタビューをIAMASの松井茂と伊村靖子、本研究班員の伊藤存、田所、福家をインタビュアーとして行った。10月21～23日には飯田俊を東京より招いてインタビュー及び共同研究会を実施した。10月21日に今後の打ち合わせを行ったうえで、22日午後には白樺において高瀬照美、新開純也、飯田俊で高瀬泰司及び西部講堂について鼎談及び田所、福家をインタビュアーとしてインタビューを実施した。そのあと人文研で新開純也に対して田所、福家が戦後京大学生運動につきインタビューを実施した。同日夜には飯田、木下千花、小関隆、本研究班から朴、伊藤、田所、福家のメンバーで西部講堂及び戦後文化運動について共同研究を行い今後の方針などを協議した。10月23日午前には人文研で飯田に対し戦後音楽文化につき田所、福家がインタビューを実施、午後からはキーヤンスタジオで木村英輝に対して飯田、田所、福家で西部講堂及び戦後文化運動につきインタビューを実施した。同日夕刻から人文研で飯田に対し福家が飯田所蔵の資料にもとづきインタビューを実施。10月30日には京大においてシモーヌ深雪、BUBU、山中に対して田所、福家を今後の戦後京都文化のインタビューに向けて打ち合わせ等を行った。これらの聞き取り調査を行うなかで、西部講堂に関する新聞、雑誌、ビラなど多くの資料収集の提供を得た。また以上のインタビューは録音させていただき今後公開の許可を得られたものに関しては資料紹介のような形で学術雑誌等に投稿できればと考えている。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

2021年7月開催の、日本学生新左翼運動史に関する国際ワークショップで西部講堂と京大学生運動について成果報告をする予定である。またインタビューの文字起こしを適宜行い、解説を付すなどして、西部講堂関係資料として紹介していくことができれば

と考えている。